



新年のごあいさつ

栃木市長 鈴木俊美

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

新しい年が、市民の皆様方にとりまして幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げますとともに、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年を振り返りますと、7月の参議院選挙の結果、与党が過半数割れとなり、ねじれ国会の影響などにより、市町村への権限や財源の移譲が期待するほど進んではおりません。できるだけ早い地方政策の確立が望まれます。

雇用情勢や中小企業の状況は、依然として厳しい状況にあります。デフレ・為替レート・株価の変動などによる更なる景気の悪化も懸念され、依然として明るい兆しが見えておりません。国際的には、領土問題に端を発した我が国の外交、防衛のあり方が大きく問われた年であったかと思えます。

そうした中、お二人の日本人がノーベル化学賞を受賞されたことは国の将来に一筋の光明を見る思いがしました。足元に目を向けますと、皆様も既にご承知の

通り、栃木市、大平町、藤岡町、都賀町が合併し、新生「栃木市」が誕生しました。

国の行財政改革や地方分権が進展する中で、私たちはこの地域に生活し、仕事をしているすべての人々を、力強く支えていくために何をすべきかを考え、その結果、人口や行財政組織の規模と能力を拡大させ、自らの力でまちづくりを行う必要があると決意し、合併という道を選びました。

新たなまちづくりの体制として、住民・団体・企業・行政など多様な主体が参加し、「地域分権」の中で協働の仕組みとなる「地域自治区制度」を導入しました。これは、全国でも例の少ない制度であります。

また、市民の安全・安心の確保を最優先として、子宮頸がんワクチン予防接種に対する全額助成を始め、乳幼児へのヒブワクチンの予防接種助成等を実施することといたしました。

また、地域医療の中核を担ってきた下都賀総合病院の再建問題につきましましては、同病院が、市民の皆様の大切な命を守る要であること

から、市役所内に専門の対策室を組織すると共に、医療従事者・市民代表・有識者等による地域医療確保対策会議を開催し、病院の再生に向けて全力で取り組んでいるところであります。

さて、本年10月1日には、西方町との合併が予定されております。これまでの道のりは、紆余曲折がありました。昨年の11月に合併協定調印式を済ませ議会の議決もいただきました。いよいよ合併までのカウントダウンです。新たな合併により本市は人口約15万人、面積約285km²へとさらに規模拡大いたします。これを機に、西方町の皆様とも一緒になって、新しいまちづくりをしていくこととなります。移譲される行政権限や、合併による行財政の効率化を最大限に活かしたまちづくりを市民の皆様と共に取り組み「活力あるまち」、「新しいまち」が実感できる「栃木市」を創ってまいります。

結びに「卯年」の本年が、皆様にとってジャンプアップの年となりますことを心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。